

2018 年度法学類「法理学」

2019 年 1 月 24 日配布

第 4 章確認問題

1. 個別事例に対する法的な判断が正当であると評価されるためには、その判断がどのような条件を満たしていなければならないか。
2. 法的判断を論証する際、条件つき一般命題に依拠しなければならない理由を説明せよ。
3. 法規範の競合とは何か。
4. 排他的規規範競合とは何か。
5. ある要件が他の要件より「特殊」であるとはどのようなことか。内包・外延という言葉を用いて説明せよ。
6. 択一的規規範競合とは何か。
7. 累積的規規範競合とは何か。
8. 法解釈とは何か、「論理的な推論（演繹）」という言葉を用いて説明せよ。
9. 法解釈の際に追加される前提を論証する方法を 4 つ列挙せよ。
10. 必然的な解釈，不可能な解釈，偶然的な解釈について説明せよ。
11. ある語の用法について、一般人の用法と専門家の用法が異なる場合、どちらを優先すべきか。
12. 立法者意思に基づく論証とは何か。
13. 立法者意思を論証することが難しい場合が多いのはなぜか。
14. ある解釈がある目的にとって「必須である」とはどのようなことか。
15. 論理的関係に基づく体系的論証（狭義の体系的論証）とは何か。
16. 目的論的論証とは何か。
17. 語の用法に基づく法解釈と立法者意思に基づく法解釈が異なる場合、どちらを優先すべきか、その理由を含めて説明せよ。
18. 法の欠缺とは何か。
19. 超法律的法形成とは何か。
20. 公法において法の欠缺はあるか。私法において法の欠缺はあるか。
21. なぜ裁判官は超法律的法形成をしなければならないのか。
22. 類推推論とは何か。
23. 反対推論とは何か。
24. 反法律的法形成とは何か。